

小学部第*学年 重複学級 自立活動学習指導案

日 時：令和4年**月**日(*)11:05～11:50

場 所：****学級

指導者：川原 真実

1 題材名

「すぷーんめいじん、ふおーくめいじんになろう！」

2 題材について

(1) 対象となる児童の実態

対象児童は、小学部第*学年の重複学級に在籍する男子である。脳性麻痺による両下肢運動機能障害（脳原性移動機能障害）であり、生活のほとんどを車いすで過ごしている。コミュニケーション面においては、人と話すことが好きで、何かあるときは教師に「～したい」と要求することができる。遠城寺式乳幼児発達検査では、9歳7か月で移動運動 0:7～0:8、手の動き 1:4～1:8、基本的習慣 1:6～1:9、対人関係 1:6～1:9、発語 2:0～2:3、言語理解 2:3～2:6 である。検査結果から、移動運動以外の項目は、大体1歳半から2歳半の発達であったことが分かる。また、上肢操作や道具操作は、不随意的な動きにより、向きや位置を合わせることは難しいが合わせようとする意識は出てきている。普段の給食では、グリップ付きのスプーンやピストル型のフォーク、自助食器を使用して一口大のものを食べることができるようになった。しかし、手首を使ってグリップ付きのスプーンやピストル型のフォークの角度を自分で調節することが難しく、こぼす様子が見られる。また、フォークを使って1回で食べ物を刺すことが難しく、教師が手を添えて行うことで刺すことができる。食べることが大好きであり、給食を楽しみにしている様子がうかがえる。

(2) 題材設定の理由

本児童は、手指の細かい動きに困難さがあるため、注視して手先を動かすことができる活動を通して、「目と手の協応動作」を図ることができるようにしていきたい。また、人差し指、中指、親指の3本の指先を使って物をつまんだり、道具を持ったりする活動を設定することで、手先の巧緻性を養っていきたいと考える。現段階では、グリップ付きのスプーンやピストル型のフォークを使用しているが、将来的には箸も扱えるようになってほしい。そのために、人差し指、中指、親指を使った道具の扱い方を覚えて取り組むことができるよう本題材を設定した。

(3) 指導目標とリストアップされた項目及び具体的な指導内容

長期目標	・スプーンやフォークを使用して、食べ物を落とさずに食べることができる。 < 4 - (2) (3) > < 5 - (1) (3) >
短期目標	・道具を使い、手首や手指の動きを調節しながら物を操作することができる。 < 4 - (2) (3) > < 5 - (1) (3) >

項目 リストアップ	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
				(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (3)日常生活に必要な基本動作に関すること	

指導内容	基本動作について、自ら意識して調節する力を身に付けることができるようにする。	食事の場面で用いる道具を扱うときの手首や手指の動きを調節して、物を操作することができるようにする。
------	--	---

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、始めに本時の目標や学習の流れを確認することで、見通しをもって活動に取り組むことができるようにしていく。本題材の「すぷーんめいじん、ふぉーくめいじんになろう！」では、グリップ付きスプーンとピストル型のフォークを使用し、食べ物に似せた紙粘土やフェルト、ビーズ、食べ物の消しゴムをすくったり刺したりして、手先に注目しながら活動に取り組むことができるようにしていきたい。また、ペグ差しでは人差し指、中指、親指でストローや鉛筆を持ち、3点持ちを意識できるようにしていきたい。本児童とやり取りをしながら、道具を使って操作する活動を行い、成功体験を積み重ねることができるようにする。

3 指導計画（10 時間扱い）

次	時間	ねらい	指導内容
一	2	- 手や手首や腕のマッサージやストレッチを通して、手や姿勢を意識できる。 - ペグ差しをすることで、スプーンやフォークの3点持ちができる。	- マッサージやストレッチをする。 3点持ちを意識できるように、ペグ差しをする。
二	8 本時 5/8	- 手や手首や腕のマッサージやストレッチを通して、手や姿勢を意識できる。 - ペグ差しをすることで、スプーンやフォークの3点持ちができる。 - スプーンやフォークを実際に使用し、物をすくったり、移したり、刺したりすることができる。	- マッサージやストレッチをする。 3点持ちを意識できるように、ペグ差しをする。 - 道具を扱うときの動きを調節し、物を操作できるようにする。

4 本時の指導

(1) 目標

スプーンとフォークを使い、物（お弁当の模擬具材）を移動することができる。

(2) 教材・教具

ストロー、コップ、鉛筆、フードバック、グリップ付きスプーン、ピストル型のフォーク、弁当箱、紙粘土の食べ物、フェルトの食べ物、食べ物の消しゴム、ビーズ、CD、CD プレイヤー、皿、机、滑り止め、頑張りカード、はじめのあいさつとおわりのあいさつの台本、皿を置く台

(3)展開 ※形態の表記は、全体：全、グループ：グ、個別：個

形態 時間	主な学習活動・内容	教師の手立て ※評価は□で囲む
個 (3)	1 はじめのあいさつをする。	・「授業をはじめます。」と言葉かけをし、児童と一緒に台本を読みながら、言葉であいさつをすることで学習のはじまりを意識できるようにする。
	2 本時の目標と学習の流れを確認する。 【もくひょう】 すぷーんめいじん、ふおーくめいじんになろう！	・ホワイトボードに本時の目標と学習内容を提示することで学習の流れや本時の課題が分かり、見通しをもって取り組むことができるようにする。
	【がくしゅうないよう】 ➡ ①たいそう ②てをうごかさう ③ふりかえり	・学習内容に矢印のカードを付けることで、現在の活動が視覚的に分かり、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。
(10)	3 ふわふわ体操をする。	・ふわふわ体操の曲をかけ、楽しい雰囲気で行うことができるようにする。
		・「指を動かすよ」など、具体的に動かす部分を言葉かけし、意識を向けながら指や手、腕などをほぐすことができるようにする。
		・指や手首など手の体操をすることで、手先を動かすことを意識できるようにする。
		・頑張りカードの体操の欄にシールを貼ることで、意欲的に活動できるようにする。
(27)	4 手を動かす活動をする。 (1)ストローのペグ差しをする。	・ストローを人差し指、中指、親指でつまんで持つことを言葉かけしたり、手を添えて支援したりすることで、3点持ちを意識できるようにする。
		・言葉かけや手を添えて支援をすることで、3点持ちでストローを持ち、コップの穴にストローを入れることができるようにする。
		・ストローをコップの穴に入れることができたときには、大いに称賛したり、頑張りカードのストローの欄にシールを貼ったりすることで、意欲的に学習に取り組めることができるようにする。
	(2)たこ焼きのペグ差しをする。	・たこ焼きのペグ差しの鉛筆について、輪ゴムのところを持つように言葉かけしたり、手を添えて支援したりすることで、3点持ちを意識できるようにする。
		・たこ焼きのペグ差しが全部できたときは、大いに称賛したり、頑張りカードをたこ焼きの欄にシールを貼ったりすることで、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
	(3)スプーン・フォーク名人になり、お弁当を作る。	・右手にスプーンやフォークを持ち、左手を皿に手を添えることを言葉かけしたり、手を添えて支援したり

		することで、食べるときの手の使い方を意識できるようにする。 ・スプーンやフォークを持ち、食べ物に似せた紙粘土やフェルト、ビーズ、食べ物の消しゴムをすくったり刺したりすることができたときには、大いに称賛することで意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
		スプーンとフォークを使い、物（お弁当の模擬具材）を移動している。〈4－(2)(3)、5－(1)(3)〉
(5)	5 本時の振り返りをする。 6 終わりのあいさつをする。	・スプーンですくった食べ物とフォークで刺した食べ物を、教師と一緒に弁当箱に詰めることで、達成感を味わうことができるようにする。 ・取り組んだ活動の写真カードを用意し、頑張った活動をホワイトボードに貼る場面を設定することで、振り返ることができるようにする。 ・「授業を終わりにします。」と言葉かけをし、児童と一緒に台本を読みながら、言葉であいさつをすることで学習の終わりを意識できるようにする。

【板書計画】

めあて

すぷーんめいじん、ふおーくめいじんになろう！

がくしゅうないよう

➡ ①たいそう

②てをたくさんうごかそう

③ふりかえり

がんばりかーど

【配置図】

